

令和3年度 国東市：大分県学力定着状況調査結果（中学校：社会）

1 結果のポイント（数値は正答率）

全問題数：30問（知識20問、活用10問）

「教科全体」59.3（「知識」61.3、「活用」55.4）で、大分県と比較して「教科全体」-1.2【H31:-1.3】（「知識」-2【H31:-1.4】、「活用」+0.3【H31:-0.8】）であったことから、前回よりも「活用」が県平均を上回っている。

解答形式では「短答」「記述」が県平均を上回り、「選択」が県平均を下回った。領域別では「日本の地域構成」以外は県平均を下回り、観点別では「社会的事象への関心・意欲・態度」以外は県平均を下回った。

目標値との比較に関しては、「教科全体」「知識」「活用」「解答形式」「観点別」ともに目標値を上回っており、領域別では「世界の諸地域」「中世の日本」以外は、目標値を上回っている。

知識・活用	正答率		目標値
	国東市	大分県	
教科全体	59.3	60.5	55.2
知識	61.3	63.3	57.5
活用	55.4	55.1	50.5

解答形式	正答率		目標値
	国東市	大分県	
選択	58.8	60.9	56.5
短答	71.5	69.9	56.3
記述	41.6	37.7	37.5

領域	正答率		目標値	観点	正答率		目標値
	国東市	大分県			国東市	大分県	
世界の地域構成	53.1	53.5	51.7	社会的関心・意欲・態度	55.4	55.1	50.5
世界各地の人々の生活と環境	73.1	73.9	65.0	社会的な思考・判断・表現	55.8	56.0	51.9
世界の諸地域	49.3	53.2	50.0	資料活用の技能	57.1	58.3	53.8
古代までの日本	71.2	72.1	65.5	社会的関心・意欲・態度	61.4	62.5	56.4
中世の日本	38.0	40.1	38.8	知識・理解			
日本の地域構成	60.4	58.3	48.8				

2 課題が見られた問題と指導の改善事項

大問2 （3）日本の地域構成<知識>

①趣旨 排他的経済水域について理解している。

②解答類型と反応率

	国東市	大分県
1 1と回答しているもの	19.2	12.5
2 2と回答しているもの	9.3	7.2
◎3 3と回答しているもの	48.9	61.2
4 4と回答しているもの	22.5	18.7
それ以外	0.0	0.0
無解答	0.0	0.3

③正答について

正答率が県平均よりも12.3ポイント下回っている。排他的経済水域についての用語の理解ができていれば正答できる問題である。誤答が1・4に分散していることから、領海（領土沿岸から12海里）と排他的経済水域（領海の外側で沿岸から200海里以内）の区別が十分理解できていないと考えられる。

領土問題を扱う際に、用語の意味を教科書の文中から読み取って理解させるだけでなく、教科書や地図帳に掲載されている領土、領海、領空の範囲のイラスト（模式図）等を活用し、複数の資料を関連付けながら理解させる指導が大切である。

大問4 (2) 世界の諸地域<知識>

①趣旨 北アメリカ州の地形について把握することができる。

②解答類型と反応率

	国東市	大分県
1 1と回答しているもの	18.1	12.3
2 2と回答しているもの	26.4	20.4
◎3 3と回答しているもの	37.4	49.2
4 4と回答しているもの	17.6	17.6
それ以外	0.0	0.0
無解答	0.5	0.5

③正答について

北アメリカ州のアメリカ合衆国の断面図について正しいものを選択する問題であるが、誤答が1・2・4に分散しており、正答率が県平均よりも11.8ポイント下回っている。世界の主な地形について、地図帳で調べる作業をする中でロッキー山脈とアンデス山脈・アルプス山脈・ヒマラヤ山脈等の主な山脈の地形名だけでなく位置まで把握していれば正答できる。断面図については、各州ごとの断面図が地図帳に掲載されており、各州の地形の特色をおさえる際の必要な資料である。

平素から異なる情報を見比べ（時期や範囲の異なる地域の様子など）たり、結びつけ（地形条件と土地利用の様子）たりして読み取らせ、その結果を、根拠をはっきりさせて表現させる活動を行うことが有効である。

大問4 (3) 世界の諸地域<知識>

①趣旨 オーストラリアの貿易相手国の変化について理解している。

②解答類型と反応率

	国東市	大分県
1 1と回答しているもの	5.5	3.5
2 2と回答しているもの	19.2	10.5
3 3と回答しているもの	30.2	27.2
◎4 4と回答しているもの	45.1	58.5
それ以外	0.0	0.0
無解答	0.0	0.3

③正答について

「オーストラリアの貿易相手国の変化」や「オーストラリアに暮らす移民の出身州別割合の移り変わり」に

係る資料を読み取る学習をしていれば正答できる問題であるが、誤答が2・3に分散している。

オセアニア州の貿易、多文化社会に関わる課題について、同一の事象に関する異種の資料（グラフと文章など）の情報を見比べたり結びつけたりして読み取る活動を日頃から取り組んでおく必要がある。

世界の各州の特色について、地図帳や教科書に掲載されている資料を授業で扱う際に、資料と資料の関連付けを意識させ、読み取った結果について、根拠をはっきりさせて表現させる活動を行うことが有効である。

大問4 (5) 世界の諸地域 <活用>

①趣旨 モノカルチャー経済の国が抱える課題について、資料をもとに考察し、表現することができる。

②解答類型と反応率

	国東市	大分県
◎1 正答 (例) 輸出品の中心が原油などの鉱産資源で、価格が変動しやすく、国の収入が安定しないこと。	14.3	15.6
△2 内容が不十分な場合	47.3	29.2
上記以外の解答	20.3	34.5
無解答 (無記入の場合)	18.1	20.7

③正答について

正答率が一番低かった問題である。内容が不十分な場合の反応率も高いことから、解答につながる情報の取り出しとそれらの結びつきが十分できていないことが考えられる。

資料の読み取りについて、どの段階①複数の資料から条件に合致した情報を取り出す段階②取り出した情報を比較したり、傾向を抽出したりする段階③比較したり、抽出したりした結果等を関連付けて、条件に沿って考察し記述する段階でつまづいているかを実態把握し、支援・指導していく必要がある。

大問7 (2) 中世の日本<知識>

①趣旨 御恩と奉公について、資料をもとに把握することができる。

②解答類型と反応率

	国東市	大分県
◎1 1と回答しているもの	18.7	22.5
2 2と回答しているもの	18.1	21.4
3 3と回答しているもの	37.9	33.4
4 4と回答しているもの	24.2	21.5
それ以外	0.0	0.0
無回答	1.1	1.1

③正答について

御恩と奉公の関係についての理解と承久の乱後の全国の様子についての資料の読み取りが十分でなければ正答できない問題である。誤答である3「幕府は、上皇に味方した武士の領地を取り上げ、奉公として東日本の武士を六波羅探題の役人に任命し、朝廷や西日本の武士を監視した」の反応率が高い。このことから、将軍から御家人に対する御恩と御家人から将軍に対する奉公の関係が理解できていないことと、承久の乱後の全国の様子についての資料から、承久の乱後に幕府の勢力が西日本から東日本に拡大することを読み取れないことが考えられる。

守護と地頭や御恩と奉公等の用語の整理は幕府の仕組み図や御恩と奉公の関係図を活用していくことが有効である。資料の読み取りについては、資料から分かる事実について、グループ等の学習を通して、自分とは異なる視点から取り出した情報を得たり、自分の考えについて意見をもらったりする場面を設定した授業構成が必要である。

大問7 (3) 中世の日本<活用>

①趣旨 戦国大名による支配について、資料をもとに判断することができる。

②解答類型と反応率

	国東市	大分県
1 1と回答しているもの	9.9	11.0
2 2と回答しているもの	28.0	21.9
◎3 3と回答しているもの	50.0	56.2
4 4と回答しているもの	12.1	9.6
それ以外	0.0	0.0
無回答	0.0	1.2

③正答について

正答率が県平均よりも6.2ポイント下回っており、誤答である1・2・3ともに県の反応率を上回っている。

法令は各時代の社会の状況を反映していることから、各時代の法令とその法令が定められた時代に関連する複数の資料を組み合わせた授業を展開していくことで、時代の転換の様子や各時代の特色を多面的・多角的に考察する力の育成につながると考えられる。さらに工夫していくことで、歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力の育成にもつながる。

大問8 (1) 古代までの日本 <活用>

①趣旨 シルクロードを通じた東西の交流について、複数の資料をもとに考察し、表現することができる。

②解答類型と反応率

	国東市	大分県
◎1 正答 (例) シルクロードを通じて、東西の交流があったから。	29.7	33.6
△2 内容が不十分な場合	31.3	23.1
上記以外の解答	18.7	21.1
無解答(無記入の場合)	20.3	22.2

③正答について

無回答率が一番高かった問題である。内容が不十分な場合の反応率も高いことから、解答につながる情報の取り出しとそれらの結びつきが十分できていないことが考えられる。

「この資料からわかることは何だろうか」「2つ(複数)の資料から何が言えるだろうか」と資料に対して生徒が「どのように見て」「解釈をして」「(見方、考え方)を働かせて)情報を取り出す活動の中で自分の考えを記述する時間を保障することが必要である。

3 改善のポイント（全体を通して）

- (1) 学習対象に対する関心を高め問題意識をもたせるために、予想したり学習活動を立てたりして、追究・解決方法を検討する場面の充実を図る。
- (2) 学習したことを振り返り、学習成果を吟味したり新たな課題を見いだしたりするために、学んだことを基に自らの生活をみつめたり社会生活に向けて生かしたり場面の充実を図る。
- (3) 課題の設定や発問の構成、地図や年表、統計など各種の資料の選定や効果的な活用、学んだ事象相互の関係を整理する活動を工夫する。
- (4) 生徒のつまづきがどの段階なのかを把握した上での授業づくり
下記の①～③のどの段階でつまづいているのか実態把握し、支援・指導していく
 - ① 複数の資料から条件に合致した情報を取り出す段階
 - ② 取り出した情報を比較したり、傾向を抽出したりする段階
 - ③ 比較したり、抽出したりした結果等を関連付けて、条件に沿って記述する段階
- (5) 複数の資料から情報を取り出し、関連付けて、社会の中にある問題を見付けたり、その解決に向けて考えたりする場面を設定する。
- (6) グループ等による学習を通して、自分とは異なる視点から取り出した情報を得たり、自分の考えについて意見をもらったりする場面を設定する。
- (7) 自分の考えを記述する時間を保障する。

【参考】

「社会の勉強が好きですか?」「社会の勉強が分かりますか?」

	国東市	大分県	全国
社会の勉強は好きですか（肯定的評価）	46.7	59.7	60.0
社会の勉強はわかりますか（肯定的評価）	53.3	67.6	64.3